

健康診断の検査項目について

Vol.11

健康診断で行われる検査項目について、その働き・基準範囲・疑われる疾患などを解説していきます。

〔感染症や免疫異常を調べる検査〕

免疫（病気にかからないようなシステム）が働くときにつくられる抗体の種類や量などを調べて疾患の手がかりを探す検査です。

C－反応性蛋白（CRP）

基準範囲：0.20 mg/dℓ以下

いろいろな感染症や炎症性疾患によって血液中に増えるたんぱくの一つ。重症度や治療効果を測るマーカーとしても有効。

高値・・・感染症・炎症・膠原病・心筋梗塞など

赤血球沈降速度（血沈・赤沈）

基準範囲（1時間値）：男性 2～10mm

女性 3～15mm

炎症を伴う多くの疾患で異常値を示すのでスクリーニング検査として行われる。（ヘモグロビン・ヘマトクリットなどと合わせて検査する必要がある）

亢進・・・骨髄腫・感染症・炎症性疾患・がんなど

遅延・・・播種性血管内凝固症候群・赤血球増多症など

リウマチ因子（RF）

基準範囲：15 IU/ml

自己免疫疾患（本来異物に対して攻撃をするはずの抗体が間違えて自己組織を攻撃してしまう病気）の中で最も多い関節リウマチを診断するための因子。

高値・・・自己免疫異常・肝硬変・感染症・がんなど

藤枝健診センター健診検査課主任 高田 雅紀

小林課長に人命救助で静岡市消防局長表彰

昨年9月19日、静岡市消防局において、当協会総合健診センターの小林辰雄事務管理課長に人命救助の功績で静岡市消防局長から感謝状を授与された。

昨年7月27日午後7時半頃に、小林課長が帰宅途中、自宅近くの用水路に自転車を漕いでいた80歳代の男性が誤って転落したところを、通りかかった男性とともに目撃した。その男性が救護措置を施す間に、小林課長が迅速に消防に通報し、連携協力して人命救助に尽力した功による。



第49回学校保健セミナーを開催（報告）

当協会と静岡県学校保健会共催の第49回学校保健セミナーを、昨年10月30日に静岡県男女共同参画センター「あざれあ」にて開催した。講師には、静岡県子ども病院看護部・小児救急看護認定看護師である塩崎摩耶子氏をお迎えし、県内全域から参加した養護教諭等154名の方々が、「学校現場できる子どものケガなどへの応急手当」と題された講演に熱心に耳を傾けた。

講演は「自己の安全確認」「傷病者の体位管理・搬送」といった全ての傷病で共通する内容から始まり、「創傷」「内出血」「打撲」「やけど」「窒息」といった傷病に応じた処置、そして環境整備や子供への教育といった事前の対策という内容で行った。

特に各傷病への処置については、傷病の程度や状態を表や図で示し、程度に応じた具体的な処置を説明するという、救急の現場において実践的で役に立つ内容であった。

質疑応答も盛況であり、講演の終了後も多くの受講者が直接講師に質問する場面が見られた。各学校の養護教諭からは実際に体験した救急応対において不安だった点が挙げられ、講師からは適切な処置の説明や行った処置への肯定をいただいた。

傷病への救急応対は十分な準備の上で行えるとは限らず、処置する側は常に不安を感じてしまう。今回の講演は、そういった状況において適切に対応するための一助になるのではないだろうか。

（藤枝健診センター情報管理課 紅林 彩斗）



【開催案内】第50回学校保健セミナー

昨年度に引き続き、「気になる子」をテーマにしたセミナーです。教育現場で「気になる子」は、身の回りの刺激に敏感な子どもが多いのではないかと思います。そんな子どもたちの心と身体の過敏さについて理解を深めながら、一歩進んだ対応について講演していただきます。過敏な子どもでも安心できる環境づくりは、人間関係を円滑にしたり、活動への参加を促すことにつながります。ぜひ、児童生徒における「気になる」とは何かを考えてみませんか。

○テーマ：「続・気になる子どもへの対応」

○講師：常葉大学保育学部 講師 赤塚めぐみ氏

○日時：平成31年3月12日(火) 14：00～16：00

○会場：静岡県男女共同参画センター「あざれあ」2階大会議室
（静岡市駿河区馬淵1丁目17-1）

○受講定員：130名（先着順）＊受付状況は当協会ホームページで確認願います。

○問合せ先：（公財）静岡県予防医学協会 健康増進課広報担当
電話054-636-6461 F A X 054-636-6462

静岡県予防医学協会 総合健診センター

ヘルスポートだより

ゆったりした空間でリラックスして
健診を受けてみませんか

ヘルスポート1階受付前の待合は、2階までの吹き抜けの空間で開放的な造りとなっています。1階の正面玄関を入ると目の前に大きな中庭が目に入ってきます。明るくやさしい陽光が降りそそぎ、広さと安らぎのある空間を提供しています。中庭は時期により植物やオブジェが変化し、四季折々の変化を楽しむことができます。

くつろぎの空間でゆとりある健診が受けられます。ぜひこの機会にご利用ください。



加藤常務理事(事務局長)に中央会賞(小宮記念賞)

入山係長に中央会奨励賞

予防医学全国大会開かれる

公益財団法人予防医学事業中央会及び公益財団法人新潟県保健衛生センター主催の第63回予防医学事業推進全国大会in新潟が、「～子どもたちの元気と地域の元気が日本の未来を開く～」をテーマに、去る平成30年10月26日新潟市において開催された。

大会では魚沼基幹病院 院長 内山 聖先生が『子どもたちの元気と地域の元気』と題して記念講演を行ったほか、元新潟県知事 平山征夫氏による文化講演『鷗外と二人の越後の医学者』、がん研究振興財団理事長 堀田知光先生による学術講演『血液一滴でがんの早期発見』などが行われた。

また、記念式典では功績者の表彰が行われ、当協会の加藤常務理事（事務局長）が予防医学事業中央会賞（小宮記念賞）を、藤枝健診センター健診検査課の入山係長が予防医学事業中央会奨励賞をそれぞれ受賞した。



加藤常務理事（事務局長）

加藤常務理事（事務局長）は、平成7年4月に入職し、診療放射線技師として業務に邁進するとともに、平成9年に開設した総合健診センター・ヘルスポートにおける人間ドック事業の立ち上げでは、健診医師の確保など事業を軌道に乗せるために東奔西走し、多大なる貢献をした。また、診療放射線技師として精度管理の向上に努めるとともに、MRI、CT検査などの導入にあたっては、技師の指導・育成に努めた。

その業績が認められ、平成21年には検診検査部長、同年3月には協会の主要拠点のひとつである西部検査所長に昇格した。平成22年には理事に就任するとともに協会本部拠点である静岡センター長などの要職を歴任し、持前の強力なリーダーシップと卓越した先見性を発揮し協会事業の発展に尽力した。その人柄は人情に厚く、何事にも熱意をもって取り組む姿は、常に職員の手本となってきた。

平成24年4月の公益財団法人への移行と同時に常務理事に就任、平成26年からは事務局長を兼務し、人材育成と風通しの良い職場環境づくり、職員のモチベーション向上のための様々な施策を実行してきた。さらに経営面では、予算管理を徹底し財務基盤の強化を積極的に推進した。また、中央会の存在意義をよく理解し、全国の運営会議、ブロック会議にも積極的に参加、発言し、予防医学運動の推進に大きく貢献している。

入山係長は、平成7年の入職以来 健診検査部に所属し23年に渡り技術畑を歩み、知識経験も深く健診検査業務に精通している。

現在は、健診分野では施設健診リーダーとして顧客満足度の向上を図るとともに、検体検査分野では精度管理責任者を務め検査精度の向上に貢献している。

人柄は責任感が強く誠実で周囲の信頼も厚い、また自らの知識経験を元に後進への指導にも力を発揮しており、今後も当会の理念である「みんなの健康を守る」の実現に向けてさらなる活躍が期待できる存在である。



入山係長